

ほのぼの News Letter



No.5 2015年6月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



CONTENTS

-
- | | | | |
|---|-------------------|----|-----------------------|
| 2 | ほのぼの憲章 | 8 | 忘れな草プロジェクト 代々木編 |
| 3 | 第4期ごあいさつ、年間スケジュール | 10 | 忘れな草プロジェクト 参加者の声・収支報告 |
| 4 | 特集 忘れな草プロジェクト | 13 | 母の日チャリティイベントのご報告 |
| 6 | 忘れな草プロジェクト 銀座編 | 14 | お知らせ |

ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っただけのような店づくりをします。
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの
“ほのぼの”を追求しつづけます。
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな
かから、新しい社会を創造します。

一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切にし、前進します。
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共
有し、つねに忘れません。

第4期スタート

一般社団法人ほのぼの運動協議会もこの4月で第4期を迎えました。

夢ある社会を実現するためにほのぼの憲章が作られたときに遡れば、今年10月5日で10周年になります。

社会貢献とビジネスの両輪は非常に楽しく、その一方で厳しく、何度となく挫折を味わって今日を迎えています。

しかし世の中はどんどん格差を生み出し、私たちが提唱した活動の目的がまさに必要とされてきたのではないかと感じる今日です。

「忘れないで、東北を」をスローガンに活動を開始した忘れな草プロジェクトも第2回目も無事に終了できました。

特に大きな告知をしたわけではないものの、ご縁をいただいた大学や大使館をはじめとする外部の方からも、募金での支援やボランティア活動への参加での支援など多くの協力をいただき、着実に運動の広がりを見せてきています。

既に連続で参加してくださっている方もいらっしゃるほどです。

我々の“ほのぼの憲章”がこうして徐々に広がり、その関係性を深めることで、ほのぼのとした未来を創りあげることができたらとひそかな喜びを隠せません。

今期は根を伸ばしつつも、これまでの一区切りになるようなイベントが出来たらと考えています。

引き続き、皆さんと一緒に未来を創っていきたいと思います。

第4期の主なイベント（予定）

- 5月2日 : トルコ×ほのぼの 母の日カーネーションイベント
- 7月3日 : ほのぼの運動協議会第4期総会
- 8月 : 支援先団体視察
- 10月7日 : ジェーシー・コムサ主催 ほのぼのチャリティーゴルフコンペ
- 11月4日 : ほのぼのフォーラム
- 11月 : 忘れな草栽培交渉
- 2月 : 忘れな草手渡し式
- 3月13日 : 忘れな草プロジェクト開催

HP & SNS 随時更新

ニュースレター 年3回発行 6月・10月・2月

特集

忘れな草プロジェクト 2015

未来へ向かって



今年も昨年と同じく、東日本大震災復興支援として福島の高校生が育てた忘れな草を東京でチャリティ配布する「忘れな草プロジェクト」を3月11日前後の日曜日に開催いたしました。2回目となる今年「未来へ向かって」と題したこのイベントの詳細をご報告いたします。

■開催決定

2013年8月。ほのぼの運動協議会として初めて、東日本大震災の被災地を訪れました。そこで目にした復興とはほど遠い現状に、大河原理事長はじめメンバー全員が継続して支援することの必要性を強く感じ、決意しました。そうして「被災地をこれからも忘れずに応援していこう」という思い、さらには被災地の前向きな一歩となり、今後の産業にもつながっていくものとして大河原理事長の発案で生まれたのが「忘れな草プロジェクト」です。農業がふるわない福島で育てた忘れな草と、三陸で磨かれたホタテ貝を、都心でチャリティ配布。同時に募金を募り、それをまた翌年の忘れな草の栽培とホタテ貝の加工に当てるというものでした。

そして、2014年3月に第1回目となる「思いをつなぐ 忘れな草プロジェクト2014」を7日と8日に銀座で、16日に代々木公園で開催。多くの出会い、希望、夢の生まれるイベントとなりました。

■新しい仲間

第2回目を開催するにあたっては、前回準備不足だったことから参加いただけなかった創立115年の歴史を誇る福島県内屈指の農業名門校、県立福島明成高校を2014年11月11日に訪問。プロジェクトへの参加を改めて依頼したところ、ご快諾くださいました。それによって、忘れな草を育ててくれる高校も3校となり、ますます大きく意義あるイベントとなるべく、第2回「忘れな草プロジェクト」はスタートをしました。



左から福島明成高校の佐久間先生、橋本先生、八島先生。

■相馬農業高校、福島明成高校へ ～手渡し式開催～

2015年2月26日、イベントに先立ち手渡し式を行うために、相馬農業高校と福島明成高校を訪問しました。学校の都合で、先に相馬農業高校にうかがうことになりましたが、この日はまだ常磐道が開通していなかったため、東京からは東北道で一度福島市内に出てから南相馬に入る迂回ルートで向かいました。途中、除染された土の入った黒いビニール袋が山積みになっている風景を何度も見ました。さらに、相馬農業高校のある南相馬市内には立ち入りが許可されたばかりの地区もあり、特に海岸沿いでは、まるで復興に手がつけられていない様子が見て取れました。

待ち合わせは学校の校舎とは少し離れた農場のビニールハウス。その前で、6人の女子生徒が待っていてくれました。いろいろとお話をうかがおうとするものの、みなさん、最初ははにかんでなかなか話してくだいませんでしたが「一生懸命育てた忘れな草、受け取ってください」「東京で配ること、楽しみにしています」と笑顔で言ってくれました。授業の間ということもあり、あまりゆっくりお話できませんでしたが、忘れな草をしっかりと受け取ると同時に、東京での再会を約束しました。



来た道に戻り、再び福島市内へと向かう途中、次第に空模様がおかしくなり小雨が降りはじめました。福島明成高校に着くころには、本降りの雨となったため、明成高校での手渡し式は急遽校長室で行わせていただくことになりました。校長室にはNHKをはじめ、福島民友新聞、福島民報などメディアの取材も入り、広い校長室にたくさんの方があふれかえっていました。

そこへノックとともに、6人の生徒がワスレナグサを持って入ってきました。一列に整列すると「素晴らしい企画に参加させていただき、ありがとうございます。銀座で配布する忘れな草をきょうはお渡しいたします。心を込めて作りました。どうぞ受け取ってください」という言葉とともに、忘れな草を差し出してくれました。私たちが受け取ったその瞬間、たくさんのフラッシュがたかれ、しばし撮影タイムに。そのあとは緊張がほぐれたのか、笑顔でたくさんお話をしてくれました。その笑顔を東京で再び見せてくれることをお願いして、式を終えました。



忘れな草プロジェクト 2015 未来へ向かって

3月8日 銀座 編

2015年「忘れな草プロジェクト」のイベントは、3月8日の日曜日、銀座で幕を上げました。当日は、雨が降ったり止んだりの不安定な天気でしたが、高校生をはじめ、ボランティアスタッフも元気いっぱい、笑顔いっぱいで盛り上げました。

■雨降る銀座で

天気予報では曇りだったこの日。どんよりとした空は、早朝からいまにも雨が降り出しそうな様子でした。集合時間の9時少し前からは、とうとう雨が降り始めてしまい、この雨が銀座の人通りにどれほど影響が出るのか、少し心配なイベントのスタートとなりました。

この日は、福島からは福島明成高校の生徒が6名、先生が3名来てくださいました。なかには、東京が初めて……という生徒もあり、かなり緊張した面持ちです。ボランティアには社会人や学生など約30人が集まり、昨年よりもかなりにぎやかになりました。場所は、昨年と同様フラワーアーティストのKAORUKOさんプロデュースのお店「KAORUKOフローリスト銀座」。「マーチ・オブ・ブーケ」という社会貢献活動をされているご縁から、場所を提供してくださいました。

雨が止んだ11時少しすぎに一斉に外へ出てスタート。ところが、雨が上がったと思ったのもつかの間またすぐに降り出してしまいました。大降りではないものの、立っているとかなり濡れてしまい



ます。そこで、忘れな草や募金箱を持つ高校生と大学生を前に、社会人のボランティアスタッフは、そこへ後ろから傘をさすという作戦に。おかげで少しずつ、みんなに一体感ができていきました。

しかし、やはり雨の中わざわざ立ち止まってくださる人は多くはなく、これでは予定数を配り切ることはムリかもしれない……そう思い始めたころ、再び雨が上がりました。そこからは、あれよあれよという具合に忘れな草を受け取ってくださり、終わってみれば昨年と同様14時すぎに配布終了。最後の一鉢を受け取ってくださった方には、自然と拍手が起き、その後も募金だけしてくださる方がいたり、大盛り上がりの中、初日のイベントを終えることができました。

今年は、お隣のmadorasさんが「うちのお店の前も使っていいですよ」とお声をかけてくださったり、そのスタッフの方も福島出身とのことで募金をくださったり。また、昨年いらしてくださった方が、覚えていて今年も声をかけてくださったり、また多くの方が高校生に直接励ましの言葉をかけたいと言ってくださったり、うれしいことがたくさんありました。継続することの大切さをあらためて感じることでできたイベントでした。最後には、恒例のたい焼きで乾杯ならぬ「カンタイ」をして、笑顔いっぱいこの日を終わることができました。



各種マスコミにも取り上げられました!!!

今年も手渡し式の様子がマスコミに取り上げられました。NHKのニュースをはじめ、福島民友新聞、福島民報新聞、さらには、昨年からずっと追いかけてくださっているジャーナリストの藍原寛子さんも取材にきてくださいました。



忘れな草プロジェクト 2015 未来へ向かって

3月15日 代々木公園 編

昨年に引き続き、アイルランド商工会のご好意で、アイ・ラブ・アイルランド・フェスティバル会場ブースを出店させていただきました。今年はNHK連続テレビ小説「マッサン」の影響もあって、たいへんな賑わいの中で忘れな草のプレゼントを行いました。

■陽気な音楽の響く代々木公園で

この日も不安定なお天気の中でのスタートでした。予想来場者数が6万人とのことで、配布する「忘れな草」も1,300鉢を準備。福島からは相馬農業高校と磐城農業高校のみなさんが来てくれました。同じ県内とはいえ両校での交流は初めてということで、まずはごあいさつ。人数が多すぎて、ボランティアスタッフ全員と自己紹介することはできなかったのですが、名札をつけてもらいました。その後、さっそくテント前と公園内を歩き回るグループとに分かれて活動を開始。

昨年の反省から、今年は英語版のパネルを用意しました。フェスティバルには外国人の方も多く、そういった人たちにも私たちの活動や「忘れな草プロジェクト」を理解していただくためです。そのおかげか、外国人の方からも今年は多く募金をいただきました。



代々木公園でも銀座と同じように「昨年いただいた忘れな草、きれいに咲いたわよ」とか「相馬の出身なんです」とうれしい言葉をかけてくださる方がけっこういらっしゃいました。なかにはそのまま忘れな草を配るお手伝いをしてくださる方もいらしたりして、大盛り上がり。

みなさんととても積極的に配ってくださったこと、また多くの人に喜んで受け取っていただけたことから、早い時間に用意してあった鉢がなくなりそうになり、途中で一旦配布をセーブするといった場面もあったほどでした。

そして、終了間際には昨年同様、ステージ上で高校生から大臣へ忘れな草を手渡すセレモニーが行われました。同時に「忘れな草プロジェクト」の説明と寄附の呼びかけをさせていただきました。そのおかげで、セレモニー後にはあっという間に配布予定数がなくなり、終了。

最後は、恒例のカンタイ（たい焼きで乾杯！）で締めくくりました。高校生は帰りの時間が迫っていたため早く出なければならなかったにもかかわらず、あちらこちらで写真を撮ったり、握手を交わしたり。いつまでも名残惜し気な様子でしたが、これからも笑顔で生きていくことを約束して、別れました。

代々木公園でも、多くの出会い、絆が生まれ、2015年も大成功で幕を下ろすことができました。



◎参加した方の声

震災から4年も経ち、復興までにもまだまだ時間がかかるけど、東京に行ってもたくさんの方から声をかけてもらって配ることができたので、配った忘れな草を大切に育ててもらって震災のことを忘れないでほしいと改めて思いました。

磐城農業高校 2年

とても良い体験になったし、人とコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。さらに相農の卒業生という方が来て声をかけてくれて、色々つながれてうれしい気分になりました。

相馬農業高校 1年

避難先で南相馬から来たのが周りにバレるのが怖く、悲しく、いえずにごまかしたりしてきました。今でもニュースで震災について、南相馬について流れるのを見ると少し悲しくなってしまう。今回の活動に参加させて頂いて、私は悲しいこともあるけれど、やはり震災のことは忘れてはいけないことだと思うので、これからはちゃんと震災で起きた出来事に向き合っていけたらいいと思いました。

相馬農業高校 1年

「忘れな草を配布しています！ 私たちが育てました！」と言うだけのことが、私にはとても大きな壁のように感じました。しかし、伝えなきゃいけないし、私たちはこの活動の責任を果たさなきゃいけません。「震災を忘れないで！」という思いを伝えなきゃいけない、そう思っているうちにだんだんと声も出てきて、笑顔で忘れな草を渡すことができるようになりました。

相馬農業高校 1年

東京の皆さんにも部屋でこの忘れな草を育ててもらって緑に癒されてもらうとともに、震災のことを忘れずにいてもらえると良いなと思いました。今回の経験を生かしながら、私はみんなが笑顔になるような花を栽培し、みんなに届けられるように実習や高校生活をがんばっていきたくて思いました。

相馬農業高校 1年

初めての作業でたいへんでしたが沢山の方と協力したり触れ合うことができ良い経験になりました。

福島明成高校

募金活動は初めてだったので復興支援ができて嬉しく感じました。

福島明成高校

東京の人たちに福島のことを忘れな草とメッセージカードで伝えることができよかったです。そして東京の人たちが応援してくれたことがなによりうれしかったです。

福島明成高校

今までこのような経験をしたことがなかったのでとても良い経験になったと思います。

福島明成高校

思いのほかたくさんの人に忘れな草を手にとりいただき本当にうれしかったです。

福島明成高校





当日は色々な方が関わっていることを知って少し驚き、新鮮な感じでした。主催者の方はじめ、企画を引っ張っていた社会人の方々の行動力や物事を動かす力は本当にすごいと思いました。募金中は高校生の姿を見て自分も高校の時似たような活動をしたことも思い出して、当時の自分と比較して彼らの頑張りをすごく尊敬しました。自分はフラッと参加してしまったのですが、とても楽しく良い経験ができたと感じました。

大学1年

今まで自分がどれだけ震災について考えていなかったかを思いしりました。そのため、まだ考え中ではありますが、まずは知ることから始めようと夏のボランティアに参加したいと考えています。

大学1年

募金と言う形の支援をあまりやったことがなく、今回は募金の運営という個人的にかなり刺激的な体験をさせていただきました。

大学2年

忘れな草を知らない方も、被災地の高校生が育てたことを伝えると国籍に関わらず積極的に募金をしてくださりました。花言葉の通り、震災を忘れないこと、そして支援を継続することの形に残るものとして今後も続けられたらと思います。

大学3年

忘れな草を育てた福島県の高校生、同じく支援に参加した大学生とも交流ができた。実際に直接の交流をしてみると、震災の爪あとはまだ大きく残っていること、しかしその中でもきちんと現状と向き合い、個人個人が出来る最大限のことを考え行っていることが分かった。震災から数年が経ち、被災地から離れたところに住み平和に暮らし続けている自分にとって、私ができることはなにか、何かやるべきこと考えるべきことはあるのだと考えるきっかけとなった。

大学3年

寒さの中、募金活動をすることで被災地の方に思いを馳せることができました。募金をして下さる方の中には福島出身の方、原発の建屋を建設された方などがいらっやってその方達のお話も聞くことが出来てとても良い経験になりました。募金、忘れな草を通じて色々な方々と接することが出来て暖かい気持ちになりました。

大学2年

昨年、この活動に参加した後夏休みに初めて東北に行くことができました。今回も参加したことによって、また東北のために取り組みたいという想いがより一層増したと思います。自分なりにできることを行って、また来年活動に参加できたらよいかと思いました。

大学3年

このプロジェクトのボランティアでは、持続可能な被災地支援の方法を見た気がしました。決して無理に震災について考えようとするのではなく、暖かい雰囲気の中で、たくさんの人が笑顔で活動する姿は、私にとってとても刺激的で、そのエネルギーに元気をもらいました。

大学3年

私にとってボランティアという行為は、「してあげる」といった犠牲精神で成り立つ一方的な行為ではなく、お互いにとってプラスな行為であるべきだという認識であった。「忘れな草プロジェクト」はまさに、ボランティアに参加した私たちと、ボランティアによって支援される活動両方にとって良い効果をもたらすものになったと思う。

大学3年

忘れな草を配るなか、東北出身の方など、たくさんの方とお話することができました。忘れな草を持った人たちの後ろ姿がとても印象的でした。この忘れな草をきっかけに4年経った今後も東北のこと、そこに住む人たちを東京の人達が少しでも思い浮かべてくれればと思いました。

大学3年

震災についてお話をし親身の聞いてくださる方もいれば、更に実際被災した方もおられました。積極的にお声をかけていただき忘れな草を受け取られた方もいらっしゃいました。もちろんまだ復興は続いているのかと驚いていらっしゃる方もいて忘れな草が復興への啓発になっていることも実感できました。私も自分が入っているボランティアサークルでもっと震災について啓発したいと感じました。東北から離れている場所だからこそできることがあるのだと学びました。

大学3年

大学生ボランティアさん達の笑顔と明るい声が道行く人々に届き、徐々に受け取ってくれる人が増え、趣旨をご理解いただいた方々からの寄付をお預かりする。その時、寄付をしてくださった方と大学生ボランティアさん達の輝く笑顔が印象的でした。まさに笑顔の交流です。笑顔の先生としては、胸が熱くなるシーンがいくつもあり感激しました。

社会人

【忘れな草プロジェクト 2015 収支報告】

実施日：2015年3月8日、15日

収入金額	
寄附金収入	463,732
活動協力金(ポポラマーマ)	322,815
ほのぼの運動	449,509
合計	1,236,056
被災地の活動支援金	
ワスレナグサ栽培費	183,676
旅費・交通費	347,436
寄附金	
寄附金(相馬農業高校、磐城農業高校、福島明成高校)	300,000
被災地支援費合計(活動支援費+寄附金)	831,112
その他の経費	
包装資材費	106,920
施設使用料等	157,100
販促物作成費	140,924
合計	404,944
支出金額合計(被災地の活動支援金、寄附金、その他の経費)	1,236,056
差引	0

左の表のように、募金等の寄附金はすべて被災地支援費に利用しました。

その他の経費は、株式会社ポポラマーマおよびほのぼの運動協議会からの支援金を充当しました。

母の日チャリティイベント

5月2日の日曜日、母の日に先駆けてチャリティイベントを開催いたしました。

トルコ共和国大使館より寄贈されたカーネーション1,500本を、花を通じて社会貢献している団体“マーチ・オブ・ブーケ”とともに、銀座の交差点で配布いたしました。同時に募金を募るというイベントです。

また、カーネーションの一部を宮城県石巻市にある開成仮設住宅団地へと届けました。

さらに、後日改めて、トルコ共和国大使館より寄附金の授与式を開催していただき、多くのマスメディアにも取り上げられました。



青空が広がる中、トルコ共和国の国旗と日本の国旗・日の丸を振りながら、色とりどりのカーネーションをお配りしました。途中、トルコ大使ご夫妻もご参加くださり、とてもにぎやかで楽しいイベントとなりました。このイベントでは、3時間で84,453円もの募金が集まりました。

参加したボランティアの方からは「笑顔と共に愛のバットタッチが国境を超えて日本中に伝わり、とても有意義で幸せな瞬間でした」、「与えることで受け取れることがあるということ、トルコよりいただいたお花を道行く人に配ることで気持ちのいい循環を体感させていただくことが出来ました。活動に携わる全ての方が幸せな気持ちになれるといいなと感じました」等の感想を寄せていただきました。

また、石巻の開成仮設住宅団地では、数こそ多くはなかったものの母の日のカーネーションの贈り物、とても喜んでいただけました。

トルコ共和国大使館のみなさま、本当に素晴らしいイベントをありがとうございました。

お知らせ

磐城農業高校の校舎が完成しました

「忘れな草プロジェクト」で忘れな草を育ててくれている磐城農業高校は、震災の被害によりこれまでプレハブの仮設校舎で授業が行われていました。

それが、今年6月1日ようやく新校舎が完成したそうです。全壊だった温室2棟も新しくなり、生徒のみなさんも気持ちも新たに学習に取り組んでいるそうです。とてもうれしいご報告でした。



支援している団体の書籍が発売されました

東日本大震災関連で支援した石巻の団体「sola」の活動が、1冊の書籍になったそうです。

「sola」は被災した子どもたちの学習支援を中心に活動している団体で、わたしたちほのぼの運動協議会のメンバーが被災地視察に訪れた際、石巻をナビゲートしてくれた平田美保さんが所属されているところです。また、わたしたちが継続的に支援している園芸療法研修会ともいっしょに、南三陸で活動されており、その様子も掲載されています。



見上げる空
「被災地」から見える教会の姿
米内 宏明 著
いのちのこぼ社 刊
定価 (本体 900 円+税)

ほのぼの運動ももうすぐ 10 周年。月日の経つのは早いものですね。それに比例して私の年も体重も増える一方でございますが皆さんはいかがお過ごしですか？たいへんお待たせした News Letter、この半年は自分でもわけが分からなくなるくらい本当にいろいろなことがありました。すべていつかは通る道と想定してなかなか整理がつかないことが生きているとあるものですね。それでも、こうしてニュースレターを作っている時はいつも現場でがんばっていらっしゃる皆さんのことを思い浮かべています。秋のフォーラムにまた全員集合できますようにと祈りつつ……。

副理事長兼事務局長 作間由美子

ほのぼの News Letter No.5

発行日：2015年6月30日

発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会

編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1

A-PLACE 恵比寿南 2 F

TEL:03-5722-1070 FAX:03-5722-7396

問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org